

報 会 うでまくり

一般社団法人
福島県女性経営者プラザ

輪を広げ仲間を増やそう！

一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

会長 安 斎 惠美子



何か明るくなることを書こう、と思っていたのですが、なかなか筆が進まないものです

ね。コロナ感染者数も一進一退。それに伴い仕事が思うようにならないもどかしさ…。そんな中、飛び込んだのは、目を、耳を疑うようなニュースでした。ロシア軍の武力によるウクライナ侵攻、そして原子力発電所の砲撃と占拠には背筋が凍りつきました。東日本大震災を経験し、地震が起きるたびに「原発は大丈夫だろうか」と不安を抱えている私たち。この無謀極まりない行為には、深い怒りと虚しさを感じずにはいられません。そして「天災は忘れた頃にやってくる」

「とばかりに、去年、今年と福島県沖で地震！忘れてはいませんでした。油断はありました。つい先日までサイドボードにテープを貼るなど用心していたのに、お気に入りの切子のお猪口と日本酒が無残にも…気を緩めてはダメだと改めて決意したところです。この1年間、FJJPは「会う」ことを大事にしようと講師を招いての「セミナー」や「会員に聞く」機会を充実させてきました。皆様のご尽力で総会、定例会を開催できたことは素晴らしい進歩です。更に、今年度新設された「デジタル準備委員会」による初のオンライン定例会も開催できました。作業はデジタル化で効率良くというのが社会の流れですが、同時に、仲間と同じ場所で同じ空気を吸い、体温を

- ◆ FJJPの目的 ◆
- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

感じてのコミュニケーションも大事にしたいところ。次年度はデジタルとアナログを併用しながらバランスと柔軟性をもつて事業を進めて参ります。改めてコロナ禍の2年間を振り返りますと、諸般の事情により会を去られる方がたくさんいらっしゃいました。やむなく去られた方々の思いを胸に、次年度は賑わいを取り戻したいと思っています。そのためにも、いま身近で活動されている会員の皆さまをもっと知り、絆を深めることで輪を広げていきたいと思ひ、新年度のテーマを「輪を広げ仲間を増やそう！」に致しました。FJJPは、会員一人ひとりの生き方から学び、自身の人間性を磨く場だと思っています。女性ならではの経営感覚を共有したり、悩みを打ち明けたら…。そして、挫折そうになった時にパワーをもらえる場であり、辛抱強く一歩一歩進んでいる自分を見てもらえる場でもあります。「一人ではない」と

● うでまくりとは
古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのが。天気のよい朝にパラパラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJJP、女の腕まくりの真価はこれから！



コロナ対策も万全に！(2022.4.6 例会にて)

いうことは大きな支えです。これからも、お互いに切磋琢磨し、一緒に新しい時代を切り開いていきましょう。皆様のご支援、ご協力と共に会員増強も引き続きよろしくお願ひ致します。入会希望の方！お待ちしております。

10月定例会(講演会) — 2021年10月5日(火) 茶寮おひおり

「震災後のふくしまから発信する」

『カナダと日本で育った 福島を愛するカナダ人の経験から』



講師 福島大学国際交流センター
副センター長 マクマイケル・ウィリアム氏

【講演要旨】

■カナダバンクーバー出身で、父がカナダ人、母が日本人。5歳のとき日本に移住、8歳まで徳島県で暮らしていた。漫画ドラゴンボールを読み、少年隊の歌を聞いて日本語を学んだ。言語を覚える上で楽しんで学ぶことが大切だと感じた。漫画で学ぶ偉人伝シリーズ『新渡戸稲造』の伝記を読んだ時に「太平洋の架け橋」という言葉に胸を打たれ、日本に憧れ続け、妻を説得してJETプログラムの一員として福島県に来た。美味しい食べ物や優しい人々がたくさんいて福島県が大好き。

■「違いこそが私たちの力の源！」というスローガンを掲げるカナダで生まれたため、福島県にもっと多文化共

生の風土を根付かせたいという思いで活動している。

■福島県で外国人がぶつかると3つの壁は、制度の壁、言葉の壁、心の壁。私たちはいついつ見ただけで人を判断してしまうが、意味ある国際交流を経験してもらいたいと思い、2010年から福島大学で仕事をしている。

■東日本大震災は、地震、津波、原発事故の複合災害と言われるが、福島県は情報災害の面も大きかった。海外ではかなりセンセーショナルな報道がされたため、福島に対する負のイメージが世界中に広まってしまった。原子力発電所の水素爆発も勝手に爆発音を付けてニュースで流されたり、汚い言葉で福島県がプロパガンダに使われたり、今でも思い起こすと胸が苦しくなる。

■情報災害が解消されない要因は、原子力への不安と恐怖、他人ごとという

●マクマイケル・ウィリアム氏

カナダから福島大学に赴任し国際推進に貢献。震災後は海外へ情報発信を続け、風評被害の払しょくや福島と世界をつなぐグローバル人材育成のための教育プログラム設計に尽力。近年は海外から留学生や研究者を招き共同フィールドワークを行うなど、さまざまな啓蒙活動を行っている。

意識、言語の壁がある。震災後10年の今が正念場。今だからこそ、しっかりとした情報発信が重要。これは海外だけでなく。県外の人たちもいまだに誤解している。



久しぶりの講演会。会員も真剣です。

■FukushimaのHuman化がポイント。福島のことを考えると誰かの顔が思い浮かぶように、何を話すかよりも誰が話すかが重要。草の根レベルでの情報発信で、その土地が持っている歴史や人々の営みを伝えるべき。

■交換留学生をメンバーに、海外学生が目線でSNSの情報発信を行っている。ときには海外から心ないコメントを寄せられることもあるが、それに負けず情報発信している。VR映像も制作し、福島の空気感も伝わるような素材にも挑戦している。今後はオンラインツアアなども企画していきたい。

■「確信」をもって「核心」をつく情報発信が「革新」につながる。意味ある交流ができるのは、ホープツーリズムだと考える。コロナが落ち着いたらインバウンドに力を入れていくべきで、双葉郡12市町村を訪れる世界中の人たちがSDGsを考える場にもなる。

■「違いこそが私たちの力の源！」と今後の社会で求められるのは、深いつながりや共感力である。福島だからこそ、つながりや共感を持って相手のことを考えられる人が増えていってほしい。エンパシー教育を通して、福島から新渡戸稲造のような人材が誕生していってほしい。

11月定例会——トップ企業社長から学ぶ①

日時…2021年11月26日(金)
場所…郡山ビューホテルアネックス「舟津」

警備とオリンピックピック

ALSO K 福島株式会社

代表取締役社長 前田 泰彦



ALSO Kは、1964年東京オリンピック後に日本資本の警備会社として設立された。当初は銀行出資により銀行の警備から始まった。現在は日本ならびに海外（東南アジアを中心に）まで事業展開している。

1964年の東京オリンピックの時は20競技163種目の警備だったが、昨年の東京大会では33競技339種目となり、来場者数も競技会場も増えて警備規模も延べ1日60万人となった。警備にあたっては、大会のビジョンならびにコンセプトをもとに臨んだ。ロンドンとリオデジャネイロオリンピックでは警備会社による人員調達の失敗があり、そこから我々はALSO KとセコムのJV(国内553社)で警備を行うことを学んだ。コロナ禍のため仕事は比較的やりやすく、海外から

も良い評価をいただいた。

警備は人員のほかにセキュリティカメラ8000台、X線検査装置1000台などを使用しオールジャパン体制で行った。制服は熱中症対策を重点とした統一制服とし、



スポンサー企業以外のものを使用することは不可で徹底した。地方の大会については、ALSO Kとセコムとで振り分けをした。

あづま球場での警備は登録企業とともに行った。警備というのはリスクに備えて準備するという基本がある。あづま球場の場合は自然災害・コロナ対策等を軸に福島県、福島県警と打ち合わせのうえ進めていった。現場周辺を1ヶ月前から点検、チェックし、直前にもサイバー攻撃などを含め厳重に対応し臨んだ。さらに出入の管理も厳しく行い、警備した方には参加証を頂いた。

コロナ禍の中で、大会の開催自体賛否両論があり、ほとんどが無観客の中で行われたが、結果として東京大会の評価は良かったと思う。

警備上大変だったのは、開催会場が点在していたことで警備の許可・警備員の人数が増えてしまったこと。リスクに対する対処は常に考えていく必要があることを実感している。組織委員会から伝えられた「創造と準備」という理念にも共感した。

会社としては、今後徐々に女性が活躍できる場を広げていきたいと感じている。

前田泰彦氏プロフィール

昭和34年1月11日生（静岡県出身）
東海大学政治経済学部卒業
昭和56年4月総合警備保障株式会社入社
平成30年3月ALSO K福島出向
平成31年4月ALSO K福島移籍社長就任
現在に至る
その他 福島県警備業協会会長
趣味はゴルフ・音楽鑑賞・読書
座右の銘…継続は力なり



前田社長から会員にプレゼント。
災害用のヘルメットです



12月 クリスマス例会

一昨年はコロナの拡大で開催できませんでしたでしたが、2021年12月4日、待望のクリスマス例会を開催することができました。場所は昨年リニューアルした織井久美子会員のお店「フラジャイル」。ステキなお店の雰囲気に加え、見てよし・食べてよしのお料理とともに始まった会は、女性経営者プラザならではの華やかさとともに楽しみ満載の時間となりました。

乾杯、そして食事と賑やかなお喋りタイムが続き、場が盛り上がりつてきたところでこの日のメインイベント・二本松出身のソプラノ歌手斎藤真理さんをお迎えしてのミニコンサートです。真理さんはオペラ楽曲を何曲か披露してくださいましたが、透き通るような歌声に会員一同心が洗われるような気持ちで堪能させて頂きました。彼女は、本場ウィーンへの留学経験もあり、素敵な歌声と息の合った伴奏にしばしうっとり…。かつてのルネサンス期は芸術を支えた貴族、王朝がありました。が、現代においても、財界・経済界が文化、芸術を支えていかなければ、こ



斎藤真理(ソプラノ歌手)
二本松市出身。宮城学院女子大学芸術学部音楽科卒業。ウィーン国立音楽大学マスタークラス修了。ウィーンや東京、福島など各地で演奏会、イベントなどに出演。宮城学院女子大音楽リエゾンセンター認定演奏員

のコロナ禍を乗り越えることができないのではないかと思いました。勝手ながら今後、女性経営者プラザとしての役割が見えたような気がしました。

ミニコンサートも終わり、楽しい時間はあっという間に過ぎ、いよいよ恒例のプレゼント交換。いくつになってもプレゼントを貰うのは楽しいものです。みんな笑顔になったところでお聞き—また、今年も芸術に触れられるようなクリスマス会となることを楽しみにしています。



●ふくしまの自慢⑧

永 峯 美 緒

福島県は、中華そば(外食)への支出額が全国3位(福島県HP)。道理でラーメン屋には行列ができていり、SNSでもラーメンの投稿が多い。私も休日はSNSをチェックし、店舗へ足を運んで人気の味を食っています。そこで今回は、福島市内で私が特におすすめしたいラーメン店をいくつかご紹介いたします。

●醤油味と言えば 麺処くるり

特におすすめなのが「醤油そば味玉付き」880円。1週間熟成させた手揉みのちぢれ麺がスープに絡んで箸が止まらなくなる。店内で炭火焼きしている3種のチャーシューも絶品です。

●塩味なら 伊達屋、らーめんHOME

昔ながらの塩系スープが好きの人に▼**福島は本当にラーメンのレベルが高いです！是非一度お試しあれ！**

●味噌味だったら 紺や

鳥ガラ、豚のゲンコツをベースにしたスープを使った味噌ラーメンがこの店の一押し。味噌ダレには、3種類の赤味噌にバナナ、旬の県産フルーツも入っているとか。

●番外編：中国四川料理心(シン)

私は、担々麺が好きでいろいろな店を訪ねましたが、今は「心」さんが一押し！濃厚なごまの風味、たっぷりの肉みそ、辛さの中に甘味が感じられます。麻婆豆腐も大人気のお店です。

<p>▶麺処くるり 醤油だれ味玉付き：3種のチャーシューが乗って贅沢な一品です。</p>	
<p>▶伊達屋 伊達鶏のダシと中細麺で程好いコシのラーメンが人気。煮卵はもちろんな伊達鶏の卵。</p>	
<p>▶らーめんHOME 春の季節限定メニュー「クラムチャウダーヌー」一度は食べてほしい一品。</p>	
<p>▶紺や この店一押し味噌類の担々麺は、濃厚なスープが麺と絡んで味は抜群。</p>	
<p>▶心(シン) 黒胡麻 白胡麻 2種類の担々麺は、濃厚なスープが麺と絡んで味は抜群。</p>	

22年1月例会

2022年1月13日(火)
郡山ビューホテルアネックス「舟津」

※会員に聞く※

◆三部香奈会員 (三部会計事務所)
◆佐藤友美会員 (熱海運送株式会社)
進行・安斎恵美子会長

新年最初の例会は、佐賀裕子会員の祝舞から始まりました。あでやかな舞に「アンコール！」の掛け声も入り、新春に相応しい会となりました。

F J P 恒例「会員に聞く」——今回は三部香奈会員、佐藤友美会員にお話を伺いました。

■三部会員は、新聞記者時代から多くの経営者と接する機会があり、ご主人との出会いも取材でした。結婚後は三部会計事務所の企画室室長として様々な企画を提案してきました。東日本大震災による自主避難をきっかけに、地域課題に取り組む起業家を支援しようと一般社団法人グロウイングクラウドを設立。さらに子育てと仕事の両立を可能にする会社(株)ケイリーパートナーズを立ち上げ多様な働き方を実践中。今後の目標は、質の高いサービス

の提供とチャレンジできる人材育成。

■佐藤友美会員は、ピアノ講師から家業である熱海運送の副社長に転職。最初は嫌だったが女性経営者の話を聞いて受継ぐと決意。22年6月の社長就任を控え、経営的な面でいろいろ改善しながら準備している。変わったところと言えば、女性の幹部を登用したこと。長年経営者としてやってきた両親とは意見の食い違いもあるが、それはそれで学ぶことも多い。今後は女性ドライバーを増やすなど新しい企業イメージもつくっていききたい。いまは経営者としての仕事が楽しい。今後は現場も含めて末端まで見られる視野の広い経営者になりたい。

今後のお二人のご活躍が楽しみです。



三部香奈会員、安斎恵美子会長、佐藤友美会員

私のちょっと変な読書法

三部 香奈



実は私、ビジネス書を読むときに1ページ目から最後まで順番に読むことができません。本をパラパラとめくって気になったページからキーワードを抜き出してノートや付箋にメモをとっていきます。そして最後に、それらのキーワードからの気づきと次のアクションを考えます。

この読書法、レゾナンスリーディングというれっきとした速読法の一つ。ポイント、読む前に必ず著者に聞いてみたい質問を考えてから、目的を持って読む点です。早いときには読み始めてから20分くらいで答えが見つかるときもあります。

質問は、より身近で具体的なほど良く、私は日常の仕事や人間関係で困っていることや目標を立てるときなどにこの読書法を使います。いわば、本や著者が私の悩み事を聞いて

アドバイスをくれるイメージです。だから、これまで私の相談に乗ってくれた師匠は、ベストセラーの有名著者ばかり(笑)。

読んだ本や質問はノートに記録してあるので、過去にどんな本を読んだのか、また、当時はどんなことで悩んでいたのかも、質問(目的)が異なれば、その本から得る答えも全然違ってきます。

写真は、先日読んだ「モダンエルダー」(チップ・コンリー著)の読書メモです。「これから若手人材が台頭していく時代に私が果たすべき役割は何か」という問いに対して、出てきた答えは「今までの経験値を惜しまなく若手人材に教え、自らも若手人材から謙虚に学ぶメンターになる」でした。



2月定例会

2022年2月8日(火)
オンライン例会

＊会員に聞く＊

◆永峯美緒会員(北藤電設株式会社)
◆川口友子会員(株式会社川口タンス)
進行・安齋恵美子会長

2月定例会は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、デジタル部会のご協力のもとオンライン会議システムZOOMを使用して、初めてオンラインで開催しました。

Q 社長になった経緯は？

永峯・特別支援学校教員をしていたが、突然父から「跡を継いでほしい」と言われ経営者に。全く異なる分野だったが、やってみないと分からない！という気持ちで、現場や社員から学んできた。

川口・物心がついたところから後を継ぐことを意識してきた。祖父母が築いてきた会社なので決意した。兄や妹も一緒に経営



さすが! zoomも慣れたものです

している。

Q 女性経営者として苦労したことは？

川口・社員への接し方、境界線の取り方が難しかった。社長が一番努力して社員に分かりやすく伝えなければと感じている。

永峯・「どうせ周りも期待していない」と気負わずに社長業をやってきた。謙虚に一つ一つ学んでいる。

Q 社長としてのポリシーや大事にしていることは？

川口・社員の適材適所を心掛けている。

コロナ禍で遠隔の営業所とのコミュニケーションにも心配りしてきた。

永峯・就業規則や人事労務関連の整備に力を入れてきた。私が社員を引っ張っていくというよりは、自分ができていることで社員を支えていきたいと考えている。

Q4 今後の抱負などお聞かせ下さい。

川口・会社を維持することが一番だが、SDGsの取り組みとして、サステイナブルでオー

ガニツクなオリジナル商品づくりに取り組んでいく。

永峯・会社を継続させること。そして次のリーダーを今の社員から育てられるように環境や体制を整えていきたい。

Q FJPに入って良かったことは？

永峯・たくさんさんの刺激をいただいている。

3月まとめ例会

2022年3月8日(火)
茶寮 おりおり(福島市)

総務・事業・交流広報各委員会ごと1年間の振り返りと次年度の活動方針について意見交換を行いました。

各委員会からは、ウイズコロナ時代の活動の在り方やFJPの活動目的を踏まえ、タブレット活用により「離れ



る。臨機応変に対応できる皆さんは、私の心の支えになっている。

川口・上石直前会長と祖母が親しくさせていただいているので心強い。さまざまな立場で経験豊富な皆さんから貴重な学びをいただいているので、これを生かしていきたい。

ていても、繋がれる」「会に参加できなくても情報共有できる」仕組みの必要性や、女性経営者の発掘育成のための事業展開、視察事業、情報発信の仕方などについて建設的な意見がいろいろ出されました。次年度の活発な事業に期待します。





今、世の中では健康寿命をのばす取り組みや、元気に年を重ねていくアクティブシニアの考え方、また病気を未然に防ぐことや疾病の悪化を防ぐ未病対策が重要視されています。食事・栄養や生活習慣ということは繋がっており、医食同源という言葉があるように、病気を治す薬と食べ物、本来根源を同じくするもので、食事に注意することが病気を予防する最善の策でありまた、日ごろの食生活も医療に通じるということが言われています。

米離れが進む現代において、日本が大切にしてきた米作りをこれからも守っていかねばいけない私たちにとって、新たな価値の創出が重要です。

弊社の商品「う米めん」は、福島的美味しいお米で出来ています。のどごしともちもちの食感が人気で、玄米粉を練り込んだ玄米麺は食物繊維も豊富で香ばしい香りが特徴です。ご飯は食べないけど麺なら食べるというお子様にも、お米と同じ栄養価が取れるので、親としても安心です。また、グルテンフリーなので小麦アレルギーの方も、そうでない方も一緒に美味しく同じ麺を食べることが出来ます。

この「う米めん」の開発と同時に進めてきたのが、無農薬で作る生キクラゲです。1年前に初めて食し、美味しさと栄養価の高さに感動し生産を始めました。ビタミンD、植物性コラーゲン、鉄分、カルシウム、食物繊維が代表的な食材よりも豊富に含まれており、免疫力の向上や美を保つ女性にとって強い味方です。お湯で30秒程度茹でるだけで食べることができ、コリコリ、ぷるぷる食感の子供達にも大人気です。

こうした食材を紹介して、今後新たな素材の良さを伝え、食べる時に大切に



「う米めん」ギフトセット

したい心の在り方も伝えていきたいと思っています。日本で食事を始める時に使う「いただきます」のあいさつは、自然の恵みを尊び、その命をいただくことや、つくってくれた人への感謝のこと



■春の便りとともに花見の季節が到来しました。花見は、遠く奈良時代から貴族の梅を鑑賞することが由来となり、平安時代に日本古来の桜を鑑賞するようになったそうです。また、農民たちは宗教的意味合いもあつたようです。

■現代の花見は「花より団子」ですね。コロナ禍で花見もままなりません。うでまくり誌上でのお花見を楽しんでいただけるよう花見山の写真をお届けします。花見山は福島市渡利地内にあり、故阿部一郎さんが、

気持ちを表すものです。食べたものがすぐに手に入る飽食の時代ですが、改めてこうした食べることの意味を考え、健康で豊かな人生を送っていきたいと思います。

ご家族と共に70年かけて花卉栽培用に作り上げた場所です。秋山庄太郎氏が福島の桃源郷と讃えたほどの美しさ。皆さんも一度、足を運んでみてくなんしょ。 (M・N)



各委員会 新年度に向けて

◆総務委員会

総務委員長 古川 節子

総務委員会では、年度末ギリギリの3月30日、21年度3回目の委員会を開催いたしました。出席会員は10名。議題は、①5月の総会に向けて、②22年度総務新体制について、③FJPデジタル化に向けての対応など。『社会情勢に並行し、進化するFJPを意識しよう』を合言葉に、内容の濃い委員会となりました。21年度はアナログからデジタルへの準備もあり、理事・会員への連絡はメールを基本に実施してきましたが、その中で見えた課題の改善なども含め、よりよい理事会・定例会運営をめざして会員の力を発揮していくことを再確認しました。

22年度から運用を開始する
会員用タブレット
愛称「タブちゃん」



事業委員会

◆事業委員会

事業委員長 会田 和子

新年1月19日、2回目の委員会を澤上副会長のお店で開催しました。昨年末で退会の中村副委員長お別れ会も兼ねて11名全員が出席。顔を合わせたの美味しい食事に日頃の疲れも不安も吹っ飛びました。時の経つのも忘れて新年度企画やFJPへの期待などを語り合いました。「会員の皆さんと世代を超えて交流するって素晴らしい」と澤上副会長。「FJPは魅力的な会、事情が許せば継続したい」と中村さんのご挨拶。嬉しい言葉に皆ウルウル…。厳しい時こそ「結束力」を信じて前に進もうと会員の顔が輝いていました。新年度も輝ける活動を目指します。

◆交流・広報委員会

交流・広報委員長 長沢 美起子

残念なことに、21年度は退会される方が多くなってしまいました。交流広報委員会としては来期の新入会会員が増えることを期待しています。

委員会は、コロナ禍でなかなか開催できる状況ではありませんでした。皆さんの努力によって定例会が開催され、うでまくりの内容は充実したものになりました。FJP会員の皆様には本当にご協力いただき感謝申し上げます。来期に向けて、交流広報委員会としてどのようにして会員拡大をしてくか、FJPをPRしていくかが課題かと考えております。

新入会員募集中!!

FJPは、会って 語って 学んで
ホットな交流のひろばです

トライ&チャレンジ
精神の豊かな仲間
たちが、あなたをお待
ちしています。



■問合せ先
☎ 080-2671-8966
http://fjp-net.com

編集後記

震災・原発事故と11年前の傷が癒えていない現状ですが、浜通り・中通り・会津地方とそれぞれの美しさ・癒やかさがあります。浜の漁業者の活気、夜ノ森の桜、三春の滝桜、会津の人の実直さ、鶴ヶ木、花見山と数えたらきりがありません。三春町は3回春が来るので三春というそうですが、福島県ではそれぞれの地域で花開く時期が異なります。梅が咲き次には桃・桜・林檎・梨の花と次々と移り変わって行きます。世界に目を向ければ戦争という現実がある中で私達はこの美しい郷土を次の世代に守り伝えていく事も大人としての役割だと思います。

(長沢)

